

東京大学

理学部広報

第5巻 第1号 昭和48年2月28日

12月理学部会合日誌

- 4日(月) 14:00~18:00 学部長と学部自治会の会見
- 6日(水) 13:30~15:30 主任会議
- 11日(月) 14:00~16:00 理学系研究科委員会
- 12日(火) 13:00~15:00 会計委員会
- 13日(水) 10:30~12:30 人事委員会
- 20日(水) 13:00~19:30 教授会
- 25日(月) 12:30~13:50 学部長と理職の定例交渉

1月理学部会合日誌

- 10日(水) 10:00~12:00 総合計画委員会
- 17日(水) 10:30~11:10 人事委員会
14:00~18:00 教授会
- 22日(月) 12:30~13:50 学部長と理職の定例交渉
14:00~17:00 理学系研究科委員会

教授会メモ

12月20日(水) 定例教授会 於理・4号館会議室

1. 前回議事承認
2. 人事異動等報告
3. 学部学生の卒業について(一名)
4. 人事委員会報告
5. 会計委員会報告
6. 幹事会報告
7. 評議会、協議会(総長選挙)報告
学部長から、1月27日に行なわれる総長選挙に関する説明があった。

8. 教官自己規律案について

理学部における実施案を検討するための委員会を設けることをきめ、その委員として、藤田、久保、黒田各教授を選出した。

9. その他

- イ) 教育実習について
- ロ) 入学試験の監督について
- ハ) 旧式計算機を博物館に寄贈する件
- ニ) 改革フォーラム No. 27 の改革案について
- ホ) 臨海実験所寄宿舎建設について

なお、当日教授会の前に、後藤英一教授(情報研)による講演“Computer Graphics”が行なわれた。計算機で、図形ないし数式を扱う試みを、スライドを用いて説明された。

1月17日(水) 定例教授会 於理・4号館会議室

1. 前回議事承認
2. 人事異動等報告
3. 代議員選出(7名)
投票の結果、秋田、植村、大木、河田、久保、下郡山、寺山の7教授を選出した。
4. 学生休学について
5. 理学部規則および第4学期専門科目履修規則の改正について
6. 人事委員会報告
7. 教務委員会報告
便覧改正に際し、各教室の講師以上の教官の顔写真をのせることになった。
8. 総合計画委員会報告
9. 教官自己規律に関する委員会報告
10. その他

2月14日(水)定例教授会 於理・4号館会議室

1. 前回議事承認
2. 人事異動等報告
3. 学士入学について
4. 転学部、転学科について
5. 研究生期間延長について
6. 人事、会計委員会委員選出
半数交替のため、新たに、木原、寺山、藤原各教授が人事委員に、また、小柴、岩堀、吉川各教授が会計委員に選出された。なお、会計委員は、即日交替することになった。
7. 人事委員会報告
8. 全学利用 NMR 分光計利用状況について
9. 寄附受入について
10. 教官自己規律について
11. その他

教官人事異動(除退・休職)

氏名	教室	異動内容	発令年月日
山崎 敏光	物理	教授に昇任	47.12.1
尾本 恵市	人類	助教授に昇任	48.1.1
遠藤 萬里	人類	"	48.1.1
釜江 常好	物理	講師に昇任	48.1.1
福永 迪雄	化学	助手に採用	47.12.1
大隅 一政	鉱物	"	48.2.1
水谷 明	数学	"	48.2.1
若林 健之	物理	"	48.2.1
田沢 一朗	生化	"	48.2.16

外国人客員研究員

教室(所属)	国籍	氏名	現職	研究期間
化学	フランス	Jean-Luc. C. Bribes	モンペリエ大 学助手	47.10~48.9

理学博士学位授与者

昭和48年12月11日付授与者

専門課程	氏名	論文題目
物理学	小原洋二	ハドロン弱作用による崩壊
同	計良辰彦	電場内におけるPBG液晶
化学	田中貞夫	Catalysis by Electron Donor-Acceptor 電荷移動型錯体による触媒作用

専門課程	氏名	論文題目
植物学	沢田信一	Effects of growth temperatures on photosynthetic carbon metabolism in green plants. (緑色植物における光合成炭素代謝に対する生育温度の影響)
地質学	山川 稔	Petrology of the Semi dolerite. 瀬見粗粒玄武岩の岩石学的研究
学位規則第3条2項該当	福田健三	反応中の吸着測定法による固体触媒反応機構の研究
同	篠沢隆雄	A mutant of <i>E. coli</i> K12 unable to support the multiplication of bacteriophage BF 23. (BF 23 フェージが増殖しえない大腸菌変異株)

昭和47年12月31日付授与者

地球物理学	福西 浩	Constitution of Proton Aurora and Electron Aurora Substorms. プロトン・オーロラおよびエレクトロンオーロラサブストームの発達過程
-------	------	--

昭和48年1月22日付授与者

物理学	菊川浩行	π 中間子の静止系と軽粒子の関与しないハドロン崩壊
地球物理学	南部充宏	Cyclotron Waves and Wave-Particle Interactions in the Magnetosphere. 磁化プラズマ中の波動理論およびその地球磁気圏プラズマに対する応用
学位規則第3条2項該当	宮田威男	Line Shape analysis of the Γ -Exciton Spectra of NaCl NaBr and NaI Single Crystals. NaCl, NaBr, NaI 単結晶における Γ 励起子吸収線形状の解析
同	川久保勝夫	The index and the generalized Todd genus of Zp-actions. Zp作用に関する指標と一般化トッド指数
同	利根川泰遠	Isolation and characterization of a particulate aggregation factor from sea urchin embryos. (ウニ胚の顆粒性細胞凝集因子の単離と分析)
同	海部宣男	Structure and Activity in the Galactic Center Region. 銀河中心領域の構造および活動性

学部長と理職との交渉

12月の定例交渉が12月25日、12時半から行なわれた。理学部側出席者は植村、大木両評議員、吉野事務長他3名、理職側出席者は委員長他約15名であった。

議題は理学部職員の昇格、昇給の件が主なもので、これについて理職委員長と吉野事務長との間で質疑応答がなされた。

なお、理職側から、地方からの通勤職員のうち地方税の天引を中止された人がいるが、これを復活して欲しい旨要望があった。給与掛は人手不足のためやむを得ずこの処置をとっていることを説明し、評議員はなお検討すると答えた。

その他化学館わきの歩道の清掃、第二種定員外職員についても議題になった。

1月22日、12時半から1月の定例交渉が行なわれた。出席者は、理学部は大木評議員、吉野事務長他4名、理職側は委員長他約13名であった。

議題は(I)定員削減問題、(II)第二種定員外職員問題であった。

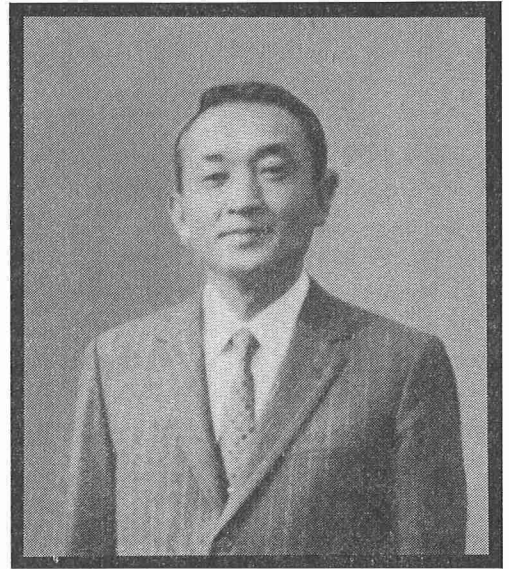
(I)について、理職側は定員削減をみとめないよう要望した。これに対し理学部側は現状について説明した。

(II)についての理職側の主張は次の通りであった。臨時的でない仕事は定員内で行なうこと、第一種職員と定員化すること、週4日もしくは長期的に週3日出勤している第二種職員を第一種にすること、臨時的に働く第二種職員の待遇を定員内職員のそれと比例したものにすること、であった。これに対し理学部側の答は次のものであった。臨時的でない仕事を定員内で行なうことは望ましいことである。定員化できない職員の数は減らすよう努力してきたため、第一種職員は30名程度になっている。理学部の性格、現状からみて、これをさらに減らすことは困難である。第二種職員については、研究室あるいは個人的に雇うという面があるので問題は複雑である。理学部人事委員会は第二種職員を第一種職員にしたい希望があれば申出るよう要望している。

前回話の出た住民税については、来年度から本部の会計で電算化の計画があるので、これが実施されれば人手不足は緩和されるかも知れないのでその際再検討する。

(木村俊房記)

岩塚助教授の逝去を悼む



地理学教室、岩塚守公助教授は1972年12月11日44才の若さで亡くなりました。原因は腹部の細網肉腫でした。いつも、元気に颯爽として歩いておられた岩塚助教授の突然の死は、今なお、われわれ教室のものには信じ難いものであります。

岩塚助教授は、1928年神田に生れ、1950年東京大学地理学科を卒業され、一時地理調査所(現国土地理院)で仕事をされたのち、1951年地理学教室に助手としてもどられ、以後21年間、研究と教育に従事してこられました。

戦後の食糧難の時に、いもをかじりながらのフィールドワークによって、最初にまとめられた論文は、桂川流域の地形発達史の研究でありましたが、以後一貫して、侵蝕地形の研究をつづけてこられました。

侵蝕地形の研究は、中緯度を中心に発達したために、かつては河川による地形の変化に観点がせばめられておりましたが、研究領域の空間的拡大とともに、別の形式による侵蝕群の認識に関心が移ってきました。

岩塚助教授が、研究生活に入られた1950年代は、日本においても、ようやくこのような認識が生まれ始めた時期でありましたが、岩塚助教授もその方向に向って積極的な活動をなされました。

侵蝕形式の空間的な違いというもの、地球上を広く歩いて、はじめて感得し得るものですが、いまだその機会を得なかつた戦後の日本にあって、岩塚助教授は、国

鉄全線に沿う山崩れの研究により、僅かな緯度差のうちにもみられる侵蝕形態の違いを明らかにされ、また富士山の大沢崩れの研究によって、高度による気候の差に侵蝕形式の違いを求められました。

これらは、いずれも数年を費しての野外での実証的研究によるもので季節を問わず、富士山に登りつづけて仕上げたこの研究が、どんなに大変なものであったかは、常に弱音をはくことをいさぎよしとしない氏の論文に、一言、hardであったという文字があることから、うかがい知ることができます。

戦後を脱して、海外研究が容易になるや、岩塚助教授は、アンデス調査団に参加して、研究対象を空間的に拡大する機会を得ました。

4,000 m を超えるアンデスの高原の上を縦横に走りまわること三度、その高原の成因に対する従来の内因的な説明に疑問をいだくようになり、気候的外因にその主因を求める仮説をいだかれるようになりました。アンデス高原が隆起準平原であるという従来の説に対立するもので、準平原論は地形学の中心の問題であることから、その問題提起は、きわめて重大なものでありました。

三度目のアンデス調査は、氏にとってはすでに苦しみになっておりました。しばしば腹痛になやまされておられるようでしたが、団長としての責任感から、全行程を予定通りおえられました。

帰国後、資料の分析に入り、雄大なアンデスの投影断面図の一枚を書きおえられた時、作業机の上にそれを置

かれたまま、病院に入ってしまった。

遺されたお子様は、最初の論文の桂川からとった桂さんと太郎君。その名にも故人の人柄がしのばれますが、いまだ茫然となすことを知らない敦子夫亡人とお子様の将来の平安を祈らざるを得ません。 (鈴木秀夫)

お 知 ら せ

(1) 昭和 48 年度デンマーク政府奨学金留学生の募集について

専攻分野: 人文科学・社会科学・自然科学・芸術
給費期間: 昭和 48 年 9 月または 10 月から 8 月間
応募資格: 大学卒業者または本年卒業見込み者
締 切 日: 48 年 3 月 10 日 (土)

(2) ユネスコ後援による第 5 回チェコスロバキアカレル大学トレーニングコース留学生募集について

分 野: 分析化学
期 間: 1973 年 10 月~1974 年 7 月
場 所: プラハ カレル大学
資 格: 理学修士およびそれに相当する資格を取得している者

その他詳細は理学部大学院掛まで照会のこと

理学系研究科

編 集 塩 田 徹 治

理・1号館 315号室 内線 2866 または 3108